



(題字 吉岡名誉顧問)

育成会だより

第111号令和7年11月 発行

東大阪市手をつなぐ育成会

(年 3回)

**創立70周年記念 第10回全国手をつなぐ育成会連合会
同時開催 令和7年度全国手をつなぐ事業所協議会全国研修大会報告 (11/9、11/10)**

副会長 坂本ヒロ子

今まで地方で開催される全国大会には、随分参加させてもらって勉強してきましたが、10年に一度皇室の方をお迎えして東京で開催される記念大会ははじめての参加でした。

テレビのニュースでご覧になった方もおられるでしょうが、11月10日2000名以上参加の記念式典は、元NHKアナウンサー内多勝康氏の司会で佳子内親王殿下がご臨席、おことばのあと、内閣府特命大臣、法務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、東京都知事、東京都議会議長からお祝いの挨拶が続き厳かなそれでいて温かな式典でした。

記念講演は、『梅切らぬバカ』の映画監督和島香太郎氏と野沢和弘氏との対談で「ともに生きる社会をじんわり語り合う」をテーマに『梅切らぬバカ』のストーリーや背景をひもときながら、野沢和弘氏の実体験などを交えながら語られました。

特別な何かではなく、日常の生活そのものが「ともに生きる社会」で楽観的でも悲観的でもなく、時には面倒に感じることも含めて「ともに生きる社会」であることを語っておられました。

配役の加賀まりこさん、塚地武雅さんとの撮影秘話、この映画の制作秘話を聞くともう一度改めて観たくなりました。

JR永和駅を5:45に出発して行った今回の全国大会は11月9日、9:45から開催される事業所協議会全国研修大会に参加するためでした。

午前中は厚生労働省 障害福祉専門官 松崎貴之氏から「障害福祉施策の動向について」、厚生労働省 就労選択支援専門官 鈴木大樹氏から「就労選択支援について」、又村あおい氏の「障害福祉サービスの現状とこれから」について話されました。

それらの話から再確認したことは

- ・就労選択支援は新卒した人だけが利用するのではなく現在、就労継続支援A型B型を利用している人も働き方についてよりよい選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援してもらうことができる制度でもあること。
- ・「アセスメント結果に基づく行き先」が地域に整備されているかということは地域の障害者就労(支援)体制が総合的に整備されているかということで、各地域の自立支援協議会で考えていかないとけないこと。

- ・意思決定支援の重視によって、①サービス担当者会議や個別支援会議は原則本人同席、②入所施設においてすべての入所者に将来的な住まい方の意向確認を実施、③グループホームからの自立を希望する者に対して「卒業」支援を提供 ④障害者の地域生活支援体制の整備が問われる ⑤就労系サービスの場合、働き方の意思決定支援が重要であること。

・我が町は、知的障害者が1人で暮らせる町ですか？

住まいは？ 緊急対応は？ ヘルパーは？ これらがなかったら地域にでられない。意思決定支援であきらめさせることになってはいけない。

各地の自立支援協議会で、知恵を出しあって地域を考えていかないといけないということ。

午後からの分科会は第3分科会『居住』「あなたはそのグループホームで幸せですか？」に参加しました。若い支援員さんが多く参加されていたのが印象的でした。

コーディネーター、3人のシンポジスト、2人の助言者で①事業所の成り立ち ②事業所の概要 ③事業所開始から年を経て ④今後の課題・展開 ⑤幸せを感じる瞬間の5つのテーマで、それぞれの法人から発言がありました。

★幸せを感じるグループホームに必要なものは？

- ・基本的な安心安全・・・防災上の建築基準を満す
- ・自分らしく生きられること・・・自己実現の支援、工夫
- ・人間関係からの幸せ・・・お互いの気持ちが変わりあえる。地域の人との人間関係

★グループホーム支援員に求められる姿勢は？

- ・あなたが支援しているグループホームにあなたのお子さんを入れますか？
- ・ことば使いにより信頼関係が薄れる
- ・×この利用者のためにやってあげる(親心)・・・○利用者が主役
- ・×本人の希望をくみ取って教えてあげる、やってあげる・・・○一緒によりそって走ってくれる
- ・気づきもてること

★明日からできる幸せを支える支援は？

- ・効率的といっても食事は別で、手作りを続けたい
- ・今までしていたことをやりつづけていく(自分で洗濯等できる人はしてもらっている)
- ・幸せ ほっこり ありがとうキャンペーン(職員間での)続けていく
- ・主体的な支援を支える
- ・気持ちは変わっていくもの いつかは一人暮らし、結婚がしたいとなる時のために生活を支援していく
- ・制度を守りながら ほっこりした雰囲気は大切
- ・利用者の声に耳を傾けて、まずは笑顔をつくって関わっていこう

等、人材不足、人材育成が話題にあがるグループホームを経営運営している管理者の上記のような意見は「生活の場」としてグループホームを利用している子をもつ私はうれしく思いました。

今年は2日間にわたっての全国大会でしたが、来年は11月1日神戸文化ホールで1日開催です。シンポジウム「親なきあとに向けて 制度・サービスの現況と課題」(住まいの場)(相談・体験の場)(権利擁護)(本人の高齢化)です。

皆さん 一緒に参加しませんか？

啓発キャラバン隊「ともにて」 in ^{あかだ}英田中学校

10月30日（木）東大阪市立英田中学校にて、今年度の活動計画の重点活動案の1つでもある『啓発キャラバン隊「ともにて」による知的障害者の理解・啓発』活動を行ってきました。

障害のある人は皆さんと一緒にこの町で暮らすなかで、いろいろな困りごとを抱えています。例えば盲導犬や手話、車椅子や杖などの補助具や工夫で暮らしていますが、私たちの家族のように気持ちや考えをうまく伝えられない人は？そんな気持ちをこのワークショップで体験してもらい、本人の気持ちに近づいてもらう事を目的に活動しています。

英田中学校では1年生200名（5クラス）を1回目120名（3クラス）、2回目80名（2クラス）で「ワークショップ」をしてもらいました。

8月に「福祉教室」の一環でのご依頼をいただき、今年度新たに結成したメンバーで、少しでも啓発・理解につながるようにと何度もワーキングを重ねてきました。

迎えた当日、緊張した面持ちで英田中学校へ
場所は体育館で小グループ（10人）に分かれて、それぞれのグループに「ともにて」のメンバーや先生がサポートします。4つのワークショップ「描いてみよう」「やってみよう」「聞いてみよう」「見てみよう」を通して、知的障害のある人の日常の困りごとを体験してもらいました。

当日、ファシリテーター（進行役）とパソコンを担当してくれた二人とメンバーの感想です。



私個人としましては、貴重な体験をさせていただき、無事に終わったことにホッとしています。力不足でしたので、あの場では伝えきれなかったと思うのですが、生徒さんたちが当事者さんと関わったり、大人になった時に思い出していただけたらいいなあと思いました。



本当に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
今回、実践させていただいた事で話し合いだけでは見えなかった課題等、今後具体的に考えていく道標のようなものが少し見えた気がしました。
また、知的障害を持ちながら義務教育を受けている子どもたちの環境も垣間見えたことで、私たちの時代とはまた違う生きやすさも生きにくさもあるだろうと、いうことも知ることが出来ました。
目まぐるしく変わる環境のなかで、少しでも子どもたちが自分自身も他人も大切に出来る時代になるように、今後も微力ながらお手伝いできたらと、思いました。
このようなことを新たに知り考える機会を下さり、本当にありがとうございました。



あれだけの大人数にあの場所で、動じることなくワークを進めてもらえたこと、本当にお疲れ様でした。教室とは違い体育館という広い場所、人数の多い中、後ろまで目を行き届かさないといけない状況で本当に難しかったと思います。落ち着いて、生徒さんの発言にもきちんとコメントを返されて、よかったです。



先生の最後のコメントで「今日のワークの一つひとつには、それぞれ意味がある。それを考えよう」と言われました。私たちはこの言葉を有り難くもあり期待もしたいです。

ワークの最後には、

この社会にはいろんなひとがいます。

みんな一人ひとり 大切な存在です。

どんな人も どんな困りごとを持っていても お互いを思いやり、
みんなが「その人らしく」暮らせるようになることが 私たちの願いです。
と締めくくりました。

今回の英田中学校からのご依頼は、以前活動させていただいた縄手中学校からの紹介でした。
このように「キャラバン隊」の輪が広がっていくことを願っています。

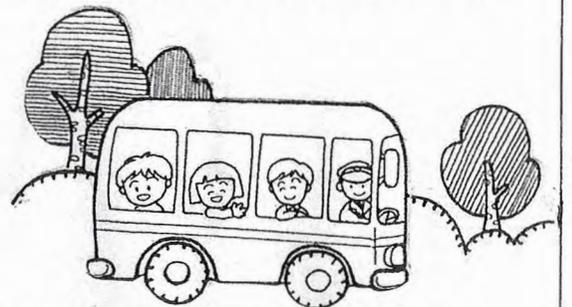
し ゃ べ り ま 専 科 !

9月12日(金)東大阪市手をつなぐ育成会「しゃべりま専科」“作る・話す・食べる”クレープ作り
に参加しました。今回は東地区の方々が参加しやすいように瓢箪山駅北側、第二東福近くの東体育館
調理室での開催になりました。

クレープ作りは初めてでしたが、焼く係が回ってきて、テレビでよく見るお玉の底で薄〜く広げて…
上手に丸くならないけど、小麦粉の粘りでひっくり返すのは上手に出来、楽しく焼きあがっていきま
した。

クレープで包む材料は野菜、ハム、チーズなどの軽食用、バナナや生クリーム、チョコなどの甘味用
とテーブルにいっぱいでした。そば粉のクレープやグリルの使い方に苦労したガレットなど残り物は
子ども達へのお土産に。

近くとなった第二東福からは7名の参加があり、
初めてお話を聞く方も多く、新鮮に感じた会でした。



レ ク リ エ ー シ ョ ン 部 会

東大阪市手をつなぐ育成会のレクリエーションは、ボウリング、ラダーエクササイズ、バス旅行、
おもちつき、クリスマスクッキング等、一年を通して楽しい企画がたくさんあります。
その中でも、参加者が多いのがバス旅行です。

今回は10月25日(土)「農業公園 信貴山のどか村」の里いも掘りの体験に親子で行ってきまし
た。

広い畑に大きく育った里いもの株を職員さんの手を借りながらスコップを使い二人がかりで掘り起こ
すと、親いもとたくさんの子いもたちが顔を出してくれました。きれいに土を落とし、袋に詰めると
立派なお土産ができました。参加された皆さんもたくさんの収穫に満足そうでした。

今は物の値段が上がリ、少しでも家計の足しになれば助かりますね。

体験農場は他にも野菜摘み、いちご・みかん狩り・たけのこ・サツマイモ掘等四季を通して味覚狩り
が楽しめます。また、行ってみたいですね。

園内ではきれいな花が咲き、昼食は観賞しながらゆっくり過ごしました。赤・白・ピンクの満開のコ
スモスの前では、写真に収めているほほ笑ましい光景も見られました。

一日、自然と触れ合うことができ、親子でよい気分転換になりました。

役員の皆さんありがとうございました。

次回を楽しみにしています。(平尾 裕信)

